

「おめでとう。」

ルカによる福音書 1 章 26～28 節

女子聖学院中学校高等学校チャプレン 前川あきほ

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなづけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。

--

今週はアドベント 2 週目です。チャペルにも 2 本目のろうそくが灯されました。

クリスマスとはどのような日であるのか、この学校に入った皆さんは、礼拝や聖書の授業、また教会に通うことを通して知っています。クリスマスとは、キリストを礼拝する日、祝う日、救い主イエス様の誕生日である、と耳にタコができるほど聞いていると思います。

私も皆さんと同じように、「クリスマスは私たちの救い主イエス様の誕生日である」と、学校や教会で聞いていました。それで高校生の時、自分の教会で若い人たちが集まってクリスマスパーティをしようということになった時、ケーキを用意して持っていきました。「クリスマスパーティって、つまりイエス様の誕生日パーティだ。だから、クリスマスケーキって、イエス様の誕生日ケーキでは。」と思った私は、そのケーキの中心に乗せるプレートに、チョコペンで「Merry Christmas!」ではなく、「Happy Birthday Jesus!」と書き入れました。それで、その時は何も思わなかったのですが、今となってみれば、とても不思議に思うことがあります。それは、イエス様というたった 1 人の人の誕生日が、時代や、国籍や、人種や、身分や、性別を超えて、たくさんの人にお祝いされているということです。このチャペルに集う皆さんだけではなく、東京の、日本の、そして世界中の沢山の人が、イエス様という一人の人の誕生日を祝う。とっても不思議だと思いませんか。皆さんも考えてみてください。自分の誕生日が、2000 年後、日本から遠く離れた国も含めて、世界中の人に祝われているとしたら。想像できませんよね。後にも先にもこういう人はいないんじゃないかな、と思います。なぜ、イエス様の誕生日はこのようにたくさん祝われているのでしょうか。

それは、クリスマスは、皆さん自身が祝われる日、祝福される日、皆さんの存在が喜ばれる日でもあるからです。皆さんの今年の誕生日を思い出してみてください。今日 12 月 15 日以降に誕生日を迎えられる方は、今年の誕生日を思い出してみてください。周りの人に、「おめでとう！」って言ってもらえましたか。自分自身の存在を喜んでくれる誰かがいましたか。何より、あなた自身が「色々な人に祝われて嬉しいな。ここにいて、生きていてよかったな。」と思えましたか。

「おめでとう」という言葉は、誕生日以外にも色々な場面で使われます。受験に合格した時、学校を卒業した時、入学する時、良い成績が取れた時、できなかったことができるようになった時、何か上達した時…。これらのおめでとう！はその人が努力をしたことによって、結果を出し、何かを成し遂げることができた時に言われます。一方で、誕生日のおめでとう！は、ちょっと違います。誕生日をお祝いするのは、その人が生きていかに感謝したい。その人の存在が嬉しい。一緒にいることができて幸せ。ここにいて良かった。出会えて良かった、という喜びを分かち合うためです。受験に合格できなくても、成績が良くても振るわなくても、スポーツがうまくてもできなくても、あなたの存在そのものに対して言うのが誕生日おめでとう！です。クリスマスもそのような日です。クリスマスは、イエス様の誕生を祝い、喜ぶだけではなく、あなたがここに存在していることを喜び祝う日です。そのように言える理由は、今日の聖書箇所ヒントにあります。

もう一度聖書に目を落としてください。28 節です。『天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。』おめでとう、恵まれた方。天使がマリアに対して言った言葉です。マリアは、当時、ちょうど皆さんくらいの年齢でした。14 歳前後です。大人とはまだ言えない、あどけなさが残る少女です。色々な経験を積んだともいえないし、成熟した大人の女性とは程遠い。また、マリアはお金持ちの生まれとは到底言えない、ガリラヤという田舎の、ナザレという小さな村の出身です。マリアは、とても良い家柄の出身だとか、歴史上に残る素晴らしい功績を残した人物だとか思われがちですが、決してそうではありません。このことが何を意味するのか。神さまはマリアの存在そのものに目を留めたということです。マリアが何をした、何ができたではなく、マリアの存在そのものを喜んで、祝って、天使を通して「おめでとう」との言葉をかけたということです。

そして、このマリアに向けられた「おめでとう」の言葉は私たち自身にも向けられています。マリアのような若くて、経験も少なく、小さな村の出身であっても、神様の大きな救いのご計画の中に入れられ、祝福されました。そうであれば、あなたも私もマリアかもしれない。それは言いすぎだとしても、マリアに向けられた祝福が、私たちに向けられないはずはありません。神さまに、自分の存在が喜ばれて、大切にされて、祝われて、おめでとう、と言われたいはずはありません。「おめでとう、恵まれた方」とは、つまり、あなた自身に向けられた言葉なのです。

皆さんの中には、そんないきなり「おめでとう」って言われても、自分の存在のどこがめでたいのかわからないし、今回のテストの感触はわからないし、祝う気分には到底なれない。身の回りはイルミネーションやら飾りやら、クリスマスムードたっぷりだけれど、そんな気分とは程遠いし、自分の思いとは裏腹に無理に楽しまなきゃ、祝わなきゃという雰囲気になっている、と感じる方もいるかもしれません。でも、そこにこそ、イエス様はいます。

ある写真を持ってきました。最近、パレスチナ自治区ヨルダン川西岸のベツレヘムという町で撮影

された写真です。ベツレヘム。そう、イエス様がお生まれになった町です。この教会では今年、写真のような展示をしました。積み重なったがれきの上に、赤ちゃんのイエス様が寝かされています。現在の中東情勢を考えると、本当に胸がつぶれる思いがする展示です。私はこの写真を見た時、イエス様が寝かされているがれきが、まさに現代版のかいばおけだと思いました。人々が嘆き、悲しみ、痛み、苦しむ真ただ中に、イエス様が来てくださった。このがれきは、冷たくて、ごつごつとしていて、世界で一番涙が流されている場所です。でも、この場所で生まれたことによって、イエス様は、あなたと一緒にいるよ、と示してくださいました。

このクリスマス、イエス様のお誕生を祝うと共に、天使がマリアに示したのと同じように、私たちにも向けられている「おめでとう」に耳を傾けましょう。自分の存在を喜び、祝いましょう。隣の人々の存在を喜び、祝いましょう。イエス様は、私たちの心がどんな状況にあっても、元気でも、悲しんでいても、共にいてくださいます。それが私たちに贈られた一番のクリスマスプレゼントです。

皆さん、おめでとうございます。皆さんは恵まれた方々です。イエス様が皆さんと、今日も明日も、ずっと一緒にいるからです。お祈りしましょう。

天の父なる神さま

私の存在に目を留め、喜び、祝福して下さりありがとうございます。私たちが元気な時も悲しい時も、共にいて下さりありがとうございます。今日は試験最終日です。疲れているみんなをどうぞ励まし、最大限の力が発揮できますよう助けてください。このお祈りをイエス・キリストのみ名によってみ前にお捧げいたします。アーメン。

2023年12月15日 女子聖学院中学チャペル礼拝